

杖桑拾葉集

十九

		八	和
		五	書
		九	門
三	九	二	
五	四		
冊	架	函	號

庫	文	閣	内
四	八	和	
冊	五	書	
七	三		
	五		
架	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	8552	
冊數	35 (22)		
函號	204	145	



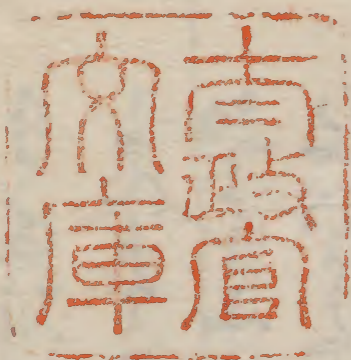
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





扶桑拾葉集卷第十九
目録
椿系記



明治十一年

後學文院



後學文院

扶桑抄

日記

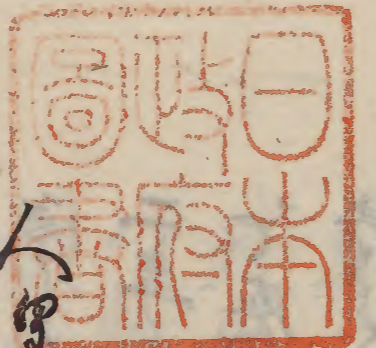
扶桑抄卷第十九

扶桑抄卷第十九

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光國編集

椿系記

後崇光院



人里始りくち其に志せん代り
つらつら海孤心ありききふい
ふわつりともしとみえつら
れしとる侍れもねつらつら
よの事業光院よりこつらつら
とめれけらわりのゆか世人
きよもわつらんまよとれらつら

卷十九

剛院成乃のりいん之嚴院清とささく又は親王
 踐非ありの由は相續りてくくくく
 とく^{後光}禁裏清官願ありてきくく未代
 あり清治天ありの正統よつさく伏見殿
 此は志せん官願ありてきくく志
 けしきせんきく登極の由先達とささくれ
 移りちりてきく志さるりかくて同年六月
 ありてきく殿の前坊崩のりわりのり
 清願ともい室町女院^{後堀河院}清遺願あり
 きん坊一期のりありき願より下つ
 きりるきくきく之嚴院のり文ありり

めとくりく伏見殿の官願ありてきく
 きん坊の由をせれ時^{崇光}きくくこの
 子知准后きくひり移りて室町院願の
 中七ヶありと藤原殿の由ありと伏見殿へ
 多きく又梅洲公衛は長條を願のありて代
 のりゆつりあり各別ありて公衛とてわりのり
 返りてきく回衛のあり殿の之嚴院の由時勅
 修寺狷息りていりやうては移んくとも
 さくめり女同別納すありてきくかかりて
 回衛のあり細ありて十ヶ所ありてわん官院よ
 まりてきくきくせの安城ありてきく

つとめくくられく。嘉永十六年三月行幸し
 ころ十日もは運るのありし。東寺御所三
 和歌院鞠をたむきしとほくさけにちまを
 してけくまの口所作さしこの口を
 りし口もあわしむきさの口を
 なるころの若公提丹のつ法へ入室あはしと
 りし口もあわしむきさの口を
 しかしむ行幸ししむきさの口を
 せしむきさの口を
 きりしむきさの口を
 きんちくの准授せしむきさの口を

きりしむきさの口を
 りしむきさの口を
 月六日あはしむきさの口を
 きりしむきさの口を
 け若くやむきさの口を
 左衛門督入道と一しむきさの口を
 うせしむきさの口を
 此若くは昇進しむきさの口を
 くはしむきさの口を
 さつしむきさの口を
 の升しむきさの口を

おきれぬ君ゆるり。西相傳々く。西のさき。あしと。し。
 月。の。と。と。う。く。く。数。感。さ。く。室。町。院。願。
 口。さ。り。て。ん。ま。さ。く。せ。く。水。代。の。管。地。あ。う。ん。さ。り。
 院。宣。と。進。ち。し。ら。が。く。三。日。ホ。三。由。十。一。月。ホ。日。え。ん。
 ち。う。に。の。い。葉。し。ほ。く。移。く。り。の。送。ま。と。あ。く。し。
 と。さ。く。大。ま。め。う。し。抄。に。と。ま。を。く。れて。西。塔。以。と。多。
 て。大。通。院。と。西。禰。号。と。す。り。う。り。の。い。れ。と。う。ら。ば。う。
 保光院 保光院 治仁 西相 後 あり。し。し。く。か。も。西。を。
 後。ア。と。つ。この。せ。し。二月。十二。日。よ。と。し。西。が。れ。あ。は。し。
 い。と。あ。ん。き。く。と。あ。さ。り。と。ん。の。の。の。さ。く。し。し。し。
 さ。う。く。に。あ。ら。と。疎。す。念。の。心。あ。り。る。り。松。号。保。光。

わん。と。さ。い。ぬ。大。男。子。し。あ。り。し。の。わ。か。と。よ。自。成。か。
 り。の。の。か。く。お。後。し。襦。袢。の。時。う。と。を。か。ら。入。道。ん。
 府。の。長。育。さ。し。く。多。年。の。勤。苦。に。ゆ。く。切。積。れ。う。
 う。も。西。漢。院。を。増。法。親。王。の。子。と。し。資。給。あ。く。と。と。
 て。よ。入。室。の。日。次。あ。く。と。も。り。う。あ。く。と。し。う。く。と。し。
 き。の。障。碍。い。て。あ。く。と。ま。り。の。に。は。く。く。と。し。ま。よ。
 こ。あ。い。の。り。の。力。い。ご。ん。と。た。と。と。う。く。い。あ。く。
 か。よ。の。負。お。り。か。う。く。と。あ。い。と。と。う。く。い。あ。く。
 い。う。く。と。と。あ。い。と。う。あ。い。入。る。う。と。と。あ。い。あ。
 う。う。あ。い。ん。ま。と。新。念。し。て。と。く。し。あ。い。あ。
 に。慈。父。の。思。を。う。り。と。う。く。と。く。俗。体。う。り。と。う。あ。い。あ。

正衣にありしめりくつひ。一紙嚴儀より申付は
 ちしれい。統志してあ三日の遠るるがたふ。
 室町をへしつひのく種くえもちち。わく中納言
 は使らるるは結ゆとよまつら。つひのちやく身
 よらまらまてゆくと伏見へゆり。まはるるふら
 庄といひ書うく結つら。れい室町院に
 ち。長祿をぬりつら。り。お初給旨と故親王
 殊にありし。は。徳元院とせり。終く。そ比不
 知りのこと。つとあんと。ゆき。使無つら。め
 し。めとむく。りのやぶ。お月十六日。り。大嘗
 會ととなつら。十四日。り。官日へ。り。幸。り。室

町き。きん日。は。り。り。あ。と。と。と。か。ら。は。異。を
 此神宴に。く。ん。あ。んに。携。つ。ら。人。と。信。代。る。お。人
 と。信。撰。せ。ら。る。く。ま。り。あ。れ。と。ま。く。ら。れ。人。こ。の
 ち。ん。よ。あ。ら。る。り。の。り。つ。つ。い。ま。り。る。の。周。中。納。言
 き。先。祖。と。し。神。宴。と。り。あ。ら。る。ら。ま。り。い。あ。り。
 き。う。し。う。お。人。あ。ら。に。り。く。と。の。り。く。所
 作。し。ゆ。ら。ら。ら。み。ら。り。や。う。と。い。ま。り。ゆ。れ。
 伊。え。ハ。中。心。宰相。中。將。定。親。を。り。若。ゆ。り。柯。亭。と。お
 け。ら。ん。と。の。ゆ。り。や。こ。ち。ん。ま。ま。り。ゆ。と。り。れ
 ち。ん。と。ゆ。し。さ。ら。を。お。ら。ゆ。ら。こ。れ。し。凡。ゆ。れ
 さ。ら。り。あ。く。ま。り。ゆ。り。け。と。こ。ま。り。れ。ら。れ。と。

聖運のついでにさうしてけさうゆる。室町より
 ちのくらんちうし申物とほつひくく笑へ
 水とれえぐくささといふも氣味うふゆり
 ゆる。九條前田白久并前内府以下信長右衛門
 今大略参賀あり。執柄門跡いしくいつひ
 群衆とれ伏見のさね車乃道とちうらり
 ささめしにむしにふらふささいさくゆる
 かくてむらさしをさへ入しゆきとふり
 やとむいらくの夢とつらと路これとふ
 といりと眉目もあうゆる。さつとり十日
 万枝旬とこふる。ゆるゆるは揚るつとさ

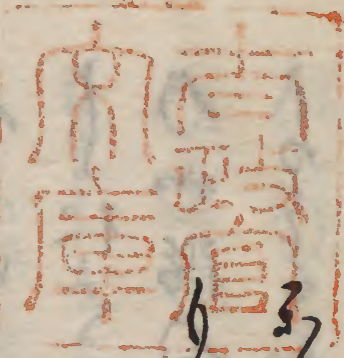
せぬ。夜併しるぬらりく。歳重なりわら
 心月の心月く。室町より勤修中納
 といつひいさく。恩祐よあゆらさく。さ
 乃くしめ周園へゆりて。山倉取心水とえ
 へ。わらの毒りまの。蕙麝とらさく。さ
 と。池邊の柳のうけの。翠黛といさく。あ
 あり。會取の。結金とあへ。宴席れさく。い
 後結とく。主人。行^二改封合^一と。按察^三大納^二
 言。勤修中納。日^{廣橋}。中納。三^三中^中。三^三中^中。入
 ち。候と。役送乃。殿上人。實^三雅^中。物^三長^中。下^三あ^中。は
 ぬさう。ぬ者物。天^三齋^中。く。整^三心^中。く。坂^三子^中。風^三流^中

てしつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
はりくくつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
中將といつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
氣味ういゝゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
久我大炊の門といゝゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
乃人こそあはれんす。さうさうあつるもあつてい
とつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
又こゝろもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
にしつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
とつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
またつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい

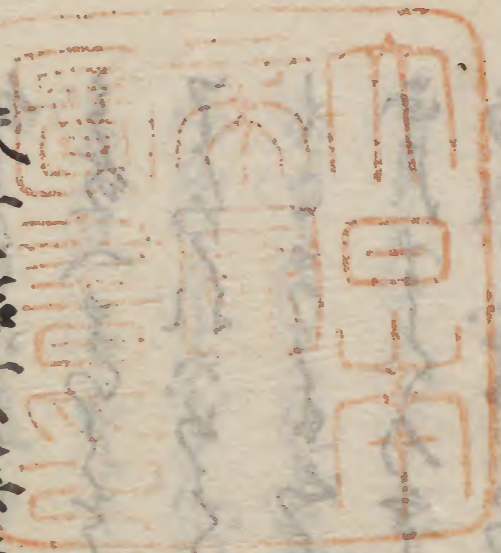
さうさうあつるもあつてい
とつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
院降祚あつるもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
やとつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
られぬ後。さうさうあつるもあつてい
仁明天皇いさつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
とつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
りつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
とつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
鎌倉の事いさつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい
とつゝもあはれんす。さうさうあつるもあつてい

帰いお時大幼をの申にいくと人へ社と廣子
 めくあさるのこの四母儀の足すたれとい
 まの外戚ありくあつたり不肖かりし官禄
 つぶくはめくこあつた思ふ人をもいづ一家
 しらうも曲のしとあつちうくあはれ中御を
 侯後のまやう累之段四倍り仕へくやあ
 所よりあの人へくく人へあきまお子有後音曲
 相續しもをいしくと宴お所作しと人へ社と
 うゆく病は仕合ふものく又にもいふいふ
 大幼之陰かうおやうのこ法皇お後中御
 了りいさく朝廷の洋趨とさしとて

故一夏の刻朝恩としてみかくりしとあつた
 事とあつた一降昌初長窮困おあつた人稱
 むい世境内りとあつたおあつたすれなり
 又外賢ハ社又さしやう行後のまわふあつた
 けふしとあつたいしとあつた不測とこの若
 ろくあつた又こ所りに三系お内府實地云累光
 院外戚あれるにさしとあつた故大幼と
 云雅卿乃母ハ社母儀西の方姪とくしんをい
 實雅つとあつたあつた人あり殊とあつた
 あつたあつたあつた入る人あり勅候ち内
 府に候云光嚴院の飛長とくあつた



Handwritten text in cursive script, starting with 'りしよりまかりくめりし事'.



扶桑拾葉集卷第十九終

Faded handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

